

動物學雜誌(第三十八卷)第四百五十三號

大正十五年七月十五日發行

報 文

朝、鮮 金 剛 山 の 蝶 類

(大正十五年三月十日受領)

農學博士 岡 本 半 次 郎

名勝地として其名高き朝鮮の金剛山は孤立したる一の山でなく、所謂萬二千衆峯より成る。金剛山は、馬山蔚山の間に起り東海岸に偏して縦走し、元山の西を走り鮮滿國境の白頭山に達する、朝鮮半島の脊梁の中央部江原道と咸鏡南道の道界に在る一群の峻峰の様である。此附近の山脈は三連の併走せる連峰より成り、中央及東方連峰は直に日本海に没し、西方連峰のみ獨り遠く北方に連亘す。金剛衆峰の區域は江原道高城、金化、淮陽郡及咸鏡南道通川郡の四郡に跨り、其廣袤大約十餘方里、通俗に之を區分して中央連峰の西側を内金剛、中央連峰と東方連峰との間を外金剛、更に東方連峰の海に没する高城附近を海金剛と稱ふ。毘盧峰は中央連峰の最高峰にして高距1786米あり、之より北方に溫井嶺(815)、萬物相(1240)、南に内霧在嶺(1303)、望軍臺(1529)、白馬峰(1497)及外霧在嶺(1385)等の峻峰がある。

大正十三年七月下旬より八月中旬に亘り、二十餘日を費して予は友人栗末只雄、越智昌雄兩氏と此處に昆蟲採集旅行を試みた、其道順の大略は、元山より海路長箭に至り直に溫井里(數泊、其間に九龍淵往復、萬物相往復)溫井里より開殘嶺を登りて楡岾寺(數泊)、楡岾寺を出て隱仙臺を上下し、内霧在嶺を越へ摩訶衍(數泊)、摩訶衍より船庵、表訓寺、正陽寺等を経て長安寺泊(數泊、此間望軍臺往復)、更に長安寺より溫井嶺を越へ溫井里に歸つた、以上でざつと内外兩金剛を一週したこととなる(海金剛にも行きしが昆蟲の採集ではない)。

本採集の主眼は夜間燈火を利用して慕光性昆蟲を採集するのであつた、蛾類の如きは従つて實に無數に蒐めたが、晝間の採品は可成貧弱であつた、就中蝶類は頗る少く、僅に68種(亞種及型を含む)を採り得たのみ。之を全鮮の蝶に比較すると、其三分の一にも達しないのであるが、五つの未記録種を捕へたことは思ひ設けぬ收獲であつた。68種を科に分け表示すると次の如くなる、最も名稱を列記するに當り從來懸案となつてゐる事項や、特記すべき要ありと認められた種には記載或は記事を附記す。

因に採集地の溫井里とあるは其附近及九龍淵往復途中。寒霞溪とは萬物相及溫井嶺を。長安寺とは其附近一帶及望軍臺往復途中を。摩訶衍とは其附近及内霧在嶺の頂上迄を。楡岾寺とは内霧在嶺の頂上より同寺附近迄及隱仙臺並に同寺附近一帶を。更に全山とは内金剛、外金剛全部を指すものである。

Papilionidae

1. *Papilio xuthus* LINNÉ (f. aest.) アゲハ (夏型)

採集地 長安寺 (一雌)

2. *P. bianor bianor* CRAMER (f. aest.) タウカラスアゲハ (夏型)

採集地 長安寺 (二雄)

本種は南支那の原産であるが朝鮮内到处に多生す。従來之れが春型に就きては知る所少かりしが、予の所藏標本(釋王寺及光陵採)によると *Papilio bianor majalis* SEITZ である。

3. *P. bianor dehaani* FELDER (f. aest.) カラスアゲハ (夏型)

採集地 長安寺 (二雄)

前種の朝鮮に極めて普通なるに反し、本種は頗る稀である。予は嘗て濟州島にて採集した事があるのみで朝鮮本土にては未だ捕へた事がなかつた(従來の記録もない)。序でながら *dehaani* と *bianor* との主なる差異は、前翅裏面の灰白帯が後者に於て、其幅極めて廣く且つ前者の黄白色なるに對し灰白色である等である。

4. *P. alcinous alcinous* KLUG ジャコウアゲハ

採集地 寒霞溪 (二雌)

Pieridae

5. *Pieris rapae crucivora* BOISDUVAL (f. aest.) モンシロテフ (夏型)

採集地 寒霞溪(二雄四雌)、溫井里(二雄一雌)、長安寺(三雄二雌)、揄帖寺(一雄)、摩訶衍(一雄)

6. *P. canida canida* SPARRMAN タイワンモンシロテフ

採集地 溫井嶺 (一雄)、揄帖寺 (一雄)

7. *P. melete melete* MÉNÉTRIÉS (f. aest.) スヂクロテフ (夏型)

採集地 長安寺 (三雄二雌)、寒霞溪 (一雄四雌)、揄帖寺 (一雄二雌)、摩訶衍 (一雄)、溫井里 (一雌)

朝鮮にありては、本種に夏型春型一變種及ミノル型がある、僅少の標本によりて學名を査定する場合往々誤りに陥り易い。VERITY や LEECH の所説には誤謬がある、仁禮の説は正しい。予の豊富なる標本で調ぶると、本種の夏型は *melete* で、春型は *aglaope* である (VERITY は夏型を *dulcinea* となし、LEECH は之れを春型と考へてゐた)。而して *dulcinea* は夏型であるのに間違はないが實は一變種である。*melete* は鮮内の何處にも發生するが *dulcinea* は北東鮮にしか産せざるようだ(予は車嶺及月精寺の標品を多藏す)。尙ほ VERITY は此他にミノル型を記述するも予は標本を有せず。學名を整理すると次の通り

Pieris melete melete MÉNÉTRIÉS (f. aest.)

P. „ *aglaope* MOTSCHULSKY (f. vern.)

P. „ var. *dulcinea* BUTLER (f. aest.)

P. „ forma *minor* VERITY

8. *Colias hyale poliographus* MOTSCHULSKY モンキテフ
採集地 長安寺 (雄雌)
9. *Gonepteryx rhamni amurensis* GRAESER ヤマキテフ
採集地 楡岾寺 (一雄)、長安寺 (一雄)
10. *Leptidia sinapis morsei* FENTON エゾヒメシロテフ
採集地 長安寺 (一雄二雌)、寒霞溪 (一雄)
内外金剛で採集した。ヒメシロテフは全鮮に分布するが、本種は北鮮及東北
鮮地方に限らると思ふ、白頭山の標本中に之れを見たことがあつた。

Satyridae

11. *Ypthima argus* BUTLER ヒメウラナミジャノメ
採集地 長安寺 (一雄二雌)、楡岾寺 (一雌)
12. *Yp. obscura* ELWES et EDWARDS テフセンウラナミジャノメ
採集地 長安寺 (二雌雄)、温井里 (一雄四雌)、楡岾寺 (一雌)
朝鮮の固有種である。雌雄とも一見ウラナミジャノメに酷似するも、雄の握
擢器の構造によりて容易に兩種を識別し得る。本種の握擢器は極めて細長く、
其尖端尖れるに、ウラナミジャノメのものは、稍短くして尖端は三角形に膨
大す。SEITZ の如きは命名者が特に此の點を記して別種と成してゐるのに、亞
種として取扱つてゐるが、予は獨立種とすべきものと信ず。
13. *Melanargia halimede meridionalis* FELDER シロジャノメ
採集地 摩訶衍、温井里、長安寺、楡岾寺、寒霞溪、(多數)
本種は日本本土に産する記録が無いが、六七月の交足一步朝鮮に入れば、釜山
から盛んに採集し得る、最も普通なる蝶である。濟州島では海岸地帯に發生する
から九州五島列島あたりにゐないかしら。
序ながら、朝鮮に *meridionalis* の他に一新亞種がある *Melanargia halimede*
coreana と命名して置く。其特征は、
イ、前翅前縁室は白色 B 至淡黄白色。
ロ、後翅の外縁に近き白紋は半圓若くは圓形。
ハ、後翅裏面の亞外縁線と其内側にある波状線間とは半圓又は其以上の白紋
を形る。
ニ、後翅裏面にある中央暗線は雄に於て遙かに長く、雌に於て幅廣く横帯を
爲す。

等である。*meridionalis* は北鮮に、*coreana* は南鮮に多し。

14. *Satyrus dryas bipunctata* MOTSCHULSKY ジャノメテフ
採集地 全山 (多數)
15. *Pararge achine achinoides* BUTLER ウラナミジャノメ
採集地 寒霞溪 (一雄)、楡岾寺 (一雄二雌)、温井里 (一雌)
16. *Lethe diana* BUTLER クロヒカゲ

採集地 長安寺 (一雄)

17. *L. marginalis* MOTSCHULSKY クロヒカゲモドキ

採集地 長安寺 (一雄)

前種クロヒカゲは、朝鮮に極めて普通なるが、本種は頗る稀である。予は金剛山産の他釋王寺の標本を有するのみ。

18. *Mycalesis gotama gotama* MOORE ヒメジャノメ

採集地 長安寺 (一雄)

19. *M. bransisca perdiccas* HEWITSON コジャノメ

採集地 長安寺 (一雄)、温井里 (一雄)

前種は可成鮮内に普通なるが、本種は頗る稀品に屬するものよ。LEECHは朝鮮に産すと記述してゐるが、仁禮は「LEECHは本種の同定を誤り前種と混同せるやの疑があるから、本種の朝鮮に産するは稍疑問である」と述べし、それはそれとして確かに朝鮮に産す。予は金剛山と釋王寺産の標本を有する。

Nymphalidae

20. *Argynnis adippe pallescens* BUTLER ウラギンヘウモン

採集地 金山 (多數)

本亞種は、後翅裏面の銀色紋のよく發達するを常形とするが、時に外縁に近き銀紋列の顯著ならざるものがある、又雄に於て二條の性斑を有するが常なるも、時々一體の個體もある。本亞種以外更に二亞種 *coredippe* と *xanthodippe* とがある、兩者とも朝鮮の固有種である。

21. *A. adippe xanthodippe* FIXSEN テフセンクロウラギンヘウモン

採集地 長安寺 (二雌)、揄帖寺 (一雌)

22. *A. laodice japonica* MÉNÉTRIÉS ウラギンスデヘウモン

採集地 揄帖寺 (一雄)、寒霞溪 (一雄)、温井里 (一雌)

23. *A. anadyomene* FELDER クモガタヘウモン

採集地 金山 (多數)

24. *A. paphia paphioides* BUTLER ミドリヘウモン

採集地 揄帖寺 (二雌雄)、長安寺 (一雌)

25. *Pyrameis indica indica* HERBST アカタテハ

採集地 長安寺 (一雄三雌)、揄帖寺 (一雌)

26. *Vanessa canace no-japonica* SIEBOLD ルリタテハ

採集地 寒霞溪 (一雄)

27. *Polygonia caureum* LINNÉ (f. aest.) キタテハ (夏型)

採集地 長安寺 (五雄)

28. *P. calbum lanigera* BUTLER (f. aest.) シイタテハ (夏型)
採集地 長安寺及揄帖寺 (多數)
29. *Araschnia burejana fallax* JANSON (f. aest.) サカハチテフ (夏型)
採集地 長安寺 (一雄)、寒霞溪 (一雄)
30. *Neptis pryeri pryeri* BUTLER ホシミスヂ
採集地 長安寺 (一雌)
31. *N. hylas intermedia* PRYER コミスヂ
採集地 全山 (多數)
32. *N. alwina kaempferi* DE L'ORZA オホミスヂ
採集地 長安寺 (一雌)
33. *N. phillyra excellens* BUTLER ミスヂ
採集地 長安寺 (二雌)、寒霞溪 (一雌)
朝鮮に於ける未記録種である。稀品に屬す、予は金剛山の他、月精寺及車嶺の標本を有す。
34. *N. tisbe forma deliquata* STICHEL オホキミスヂ (變型)
採集地 長安寺 (一雌)
オホキミスヂは中鮮及南鮮に相當普通である特に北鮮に多し。然し之の一型 *deliquata* は極めて稀である、本型は兩翅の條斑全く白色を呈す。常形 *tisbe* 及一型 *deliquata* とともに日本本土に産せず、西比利亞及北支那に分布す。
35. *Neptis themis* LEECH キミスヂ (新稱)
採集地 長安寺 (一雌)、揄帖寺 (一雌)
未記録である。本種はオホキミスヂに酷似するも、斑條に次の如き差違がある。
イ、兩翅表面の條斑は白色を帯び、條斑はオホキミスヂに比して小い。
ロ、前翅裏面の第五室紋(外縁に近き)は大にして且つ圓形であり、第四室に紫色斑紋の痕跡だに無い。
ハ、後翅裏面の中央帯は第六室に終り、帯の前端をなす二三の紫紋を缺く。
36. *Limenitis sibylla japonica* MÉNÉTRIÉS イチモンヂ
採集地 寒霞溪 (一雄)、揄帖寺 (二雌)、摩訶衍 (一雌)
37. *L. sydyi latefasciata* MÉNÉTRIÉS ヒロオビイチモンヂ
採集地 長安寺 (一雌)
38. *Limenitis helmanni* LEDERER コマナガサキイチモンヂ (新稱)
採集地 全山 (多數)
鮮朝には、ナガサキイチモンヂの原種 *helmanni* が多數に産する、予は金剛山、月精寺、白羊山、釋王寺及車嶺産の標本を有す。本種とナガサキイチモンヂとの相違點は、前翅の中央にある白紋列は著しく外方に灣曲し、中室内に二

個の白紋を装ふ(但し朝鮮産の *pryeri* には之を有する個體多し)。尚ほ形小さく、班紋も亦小である、特に白色中帯に於て然り。

39. *L. helmanni pryeri* MOORE ナガサキイチモンヂ

採集地 全山 (多数)

40. *Apatura ilia substituta* BUTLER コムラサキ

採集地 長安寺 (二雄)

41. *Ap. schrenckii* MÉNÉTRIÉS シロモンコムラサキ

採集地 長安寺 (一雄)

Lycaenidae

42. *Dendorix arata tyrianthina* BUTLER (f. aest.) トラフシジミ (夏型)

採集地 温井里 (一雌)、長安寺 (一雌)

本種は雄の性斑及發香總毛の有無によりて *Thecla* に、*Rapala* に或に *Dendorix* 屬に編入せられてゐた。朝鮮産の本種の雄には、後翅表面の前縁に近く暗灰色の性斑を認むるが發香總毛は無い、尚ほ予の内地産も之と同様である。

43. *Niphanda fusca* BREMER et GREY クロシジミ

採集地 長安寺 (二雄五雌)

44. *Thecla eximia* FIXSEN テフセンツマアカカラスシジミ

採集地 長安寺 (一雄)

45. *Zephyrus orientalis* MURRAY オホミドリシジミ

採集地 九龍淵 (一雌)

46. *Z. enthea* JANSON フナガシジミ

採集地 長安寺 (一雌)

未記録種である、予は未だ金剛山以外に採集した事が無い。

47. *Z. jonasi* JANSON ムモンアカシジミ

採集地 長安寺 (一雌)

48. *Zephyrus micaelis* OBERTHÜR コンゴウシジミ (新稱)

採集地 楡岾寺 (一雌)

雌。前翅表面は濃黒褐色、中央に橙色の一大圓紋がある、縁毛白色。後翅表面は黒褐、翅端に近く三個の(第一乃至第三室に各一つ)橙黄紋あり、第二室の紋は黒褐腫子を有す、而して第一室紋の外方肛角に一黒紋を装ふ、尾狀突起は黑色である。裏面——兩翅淡黄色。前翅に外縁に近く第一室より第七室に至る迄各室に一個の白線ありて、一縦線を成す、其外側は橙黄色である、但し第一室線の外側に三黒點あり、白色縦線と外線の間五六個の白斑縦列す。後翅の斑體略前翅に同じきも各室の白線は内方に彎曲し、第七室線の外側に一黒紋を装ひ、第二室に白線と外線の間一黒點あり、更に肛角に一黒紋がある。

頭部黒色、眼の周圍は白色、觸角黒色之に多數の白環あり、下唇鬚黒色なるも、側面及腹面は白色である。胸腹は黒褐色なるも腹面は概ね白色、脚白色にして脛節及跗節に黒環を有す。

前翅長 21 耗

本種は西比利亞の原産である、朝鮮にては金剛山が最初の採集地であるから、地名を冠してコンゴウシジミと命名せん。

49. *Chrysophanus dispar amatus* LEECH テフセンベニシジミ

採集地 長安寺 (二雄三雌)

50. *Ch. phlaeas daimio* SEITZ (f. aest.) ベニシジミ (夏型)

採集地 長安寺、寒霞溪及温井里 (多數)

51. *Everes argiades amurensis* RÜHL ツバメシジミ

採集地 全山 (多數)

52. *Lycaena argus micrargus* BUTLER シジミテフ

採集地 長安寺 (一雄)

53. *L. orion* PALLAS ホンジョウザンシジミ

採集地 寒霞溪 (二雄三雌)、長安寺 (二雌)、温井里 (一雌)

54. *L. euphemus euphemia* STAUDINGER ゴヤシジミ

採集地 寒霞溪 (二雄一雌)、長安寺 (一雄)

55. *Cyaniris argiobus ladonides* DE L'ORZA ルリシジミ

採集地 全山 (多數)

Hesperiidae

56. *Lobocla bifasciata* BREMER et GREY マヘキセハリ

採集地 温井里 (一雌)

57. *Satarupa tethys* MÉNÉTRIÉS ダイメウセハリ

採集地 長安寺 (雌雄)

58. *S. nymphalis* SPEYER コンゴウセハリ (新稱)

採集地 長安寺 (一雌)

雌。兩翅黒褐、縁毛暗褐(但し後翅のものは脈間白色)。前翅に中央帯を形くる九個の透明紋あり、更に中室の尖端に腎臓形の一透明紋を装ふ、中央帯の九紋中第二室紋最も大形にして稍四角形を呈し、第三室紋之に亞ぐ、第四第五室紋は小さく略圓形である、而して其尖端の三紋は同幅にして、長し。後翅に白色の太き一横帯を装ひ、その帯は第七室に至り急に細まる、横帯の外側黒褐部に極めて不判明なる淡色の一縦線を認め得る。裏面——兩翅とも多少表面より淡し。前翅の斑紋は表面に同じく、後翅はその基部白横帯の内方は蒼白である、更に第七室に横帯内の兩側に黒紋を装ふ。

體黒褐、側面及腹面白色、下唇鬚黄色、脚暗褐にして之に白毛及白鱗多し。

前翅長 33 耗。體長 25 耗

大形種にして、ダイメウセ、リの約二倍大あり。支那及西比利亞に産するもので、朝鮮に於ては金剛山にて初めて採集せられたる種である。採集地名を冠してコンゴウセ、リと呼ぶ。

59. *Hesperia gona* MABILLE チャマダラセ、リ

採集地 長安寺 (一雄)

60. *Aeromachus inachus* MENETRIES ホシチャマダラセ、リ

採集地 長安寺 (一雄)

61. *Heteropterus morpheus* PALLAS テフセンキボシセ、リ

採集地 長安寺 (一雄)

62. *Adopaea sylvatica* BREMER ヘリグロチャバネセ、リ

採集地 長安寺、寒霞溪 (多數)

63. *Adopaea leonina* BUTLER スヂクロチャバネセ、リ

採集地 長安寺 (一雄)

64. *Augiades ochracea rikuchina* BUTLER ヒメキマダラセ、リ

採集地 寒霞溪 (一雄)、長安寺 (一雄)

65. *A. sylvanus forma venata* BREMER et GREY コキマダラセ、リ

採集地 長安寺 (二雄)、寒霞溪 (一雄)

66. *A. subhyalina* BREMER et GREY ウ斯巴キマダラセ、リ

採集地 全山 (多數)

67. *Erynnis florinda* BUTLER アカセ、リ

採集地 温井里 (一雌)

68. *Podraona flava* MURRAY キマダラセ、リ

採集地 寒霞溪 (一雄)

(1926年2月1日)

(Résumé)

BUTTERFLIES COLLECTED ON MT. KONGO, COREA

by

HANJIRO OKAMOTO.

From the latter part of July to the middle of August in 1924, the writer and his friends Messers. T. Kurisue and M. Ochi were at Mt. Kongo on a collecting trip. This mountain is a famous place in Corea and is known as

the "Diamond Mountain." On this trip about 350 specimens of butterflies divided into 68 species were collected.

Of the 68 species enumerated in the foregoing pages, 4 are Papilionidae, 6 are Pieridae, 9 are Satylidae, 22 are Nymphalidae, 14 are Lycaenidae and 13 are Hesperidae. Among these are included seven interesting species, of which 5, *Neptis philyra excellens* BUTLER, *Neptis themis* LEECH, *Zephyrus enthea* JANSON, *Zephyrus micaleis* OBERTHUR and *Satarupa nymphalis* SPEYER are looked upon as new additions to the insect fauna of Corea, and 2, *Yptima obscura* ELWES et EDWARDS and *Argynnis adippe xanthodippe* FIXSEN are known to occur only in Corea.

本邦産胸細蜂科 Bethylidae に就て

農 學 士 内 田 登 一

(大正十五年三月二十八日受領)

茲に報告しようと思ふ Bethylidae は本邦よりは、僅かに一種 *Dissomphalus Harmandi* が知られて居るのみであるが、亞細亞、歐洲等には廣く分布して居るものであつて、其の種類も可成多數知られて居る。恐らく本邦内にも産するものであらうと思ふが、未だ不幸にして今日までは、前者以外には何等の報告もない。著者は朝鮮産の本科の二種を検する事を得た。其の中の一つは當大學昆蟲學教室に貯蔵してある、EDMIE GALLOIS 氏の採集した、數萬の標本中より唯一頭を發見したものであつて、他の一種は朝鮮水原勸業模範場技手村松茂氏の好意に依つて、檢する事を得た稍や不完全な標本である。其等は二種共に、Cleptinae 亞科の *Cleptes* 屬のものであつて、前者は新種として價值あるものであらうと思ふ。又後者は亞細亞に普通種と云はれて居る、*Cleptes femoralis* MOCSÁRY であると思はれる。

本文を草するに當て、種々御親切な御指導を給つた、恩師松村教授に對して謹んで感謝いたしますと同時に、標本を御貸與下さつた、村松氏に對しても厚く御禮を申し上げる次第である。

Bethylidae の研究歴史

該科は 1839 年に始めて HALIDAY 氏に依つて設立せられた一科である。其の後も多くの學者に依つて尙ほ、Proctotrupidae に入れられたものである。W. H. ASHMEAD 氏は Monograph of the North American Proctotrupidae (1893) の中には矢張り Proctotrupidae に入れて居つたが、1902 年の Classification of the Fossorial Wasps⁽¹⁾ に於ては、HALIDAY 氏の意見を認めて獨立の科として居る。然し其の後も J. J. KIEFFER, T. A. MARSHALL 氏や E. ANDRÉ 氏等は以前として舊の説を主張して居つたが、1908 年に J. J. KIEFFER 氏は其の著 Genera Insectorum fasc. 76 には、HALIDAY 氏に成賛して ASHMEAD 氏同様に一科を立て居る。

先に W. H. ASHMEAD 氏は本科を二亞科即ち Sclerogibbinae と Bethylidae とに分つた、又 J. J. KIEFFER 氏も之れに従つて分類して居る。然し Chrysididae の權威者である H. BISCHOFF⁽²⁾ 氏は

(1)—The Canadian Entomologist, Vol. 34 (1902).

(2)—Die Chrysididen des Königlichen Zoologischen Museums zu Berlin (Mitteil. Zool. Mus. Berlin, 1910).